

はじめに

芦名定道

この研究報告論集『キリスト教と近代社会』は、2010年度の「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会の研究成果を収録したものであるが、刊行費用は、芦名定道を研究代表とする科学研究補助金（平成22年度・基盤研究（C）「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」）から支出された。はじめに、この点について、その経緯を説明しておきたい。

「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」（課題番号22520061）は次のような目的を掲げて企画された。すなわち、「現代の思想的状況において、キリスト教思想はきわめて多様な展開を示している。本研究は、こうした動向を視野に入れつつ、社会科学（とくに、経済学と政治学）との関連で自然神学を再構築することを目的とする。自然神学は、古代以来、それぞれの時代における知的状況に即応しつつ、キリスト教思想と他の諸思想（諸科学）との創造的な関わり合いのために必要な理論的基盤の構築を担ってきた。本研究は、この自然神学の営みを現代の思想状況において継続的に発展させるとともに、環境と経済をめぐる現代の深刻な危機的状況に対して、宗教・キリスト教が蓄積してきた伝統的な知恵を、有意義な仕方でも再提示することを意図している。」（応募書類より）

このための「研究計画・方法」では、平成22年度に関して、1．文献収集とその分析、2．文献分析から理論構築へ、4．海外における研究調査、5．ホームページの開設、6．資料のデータベース化、と並んで、「3．国内における共同研究」が挙げられている。この「3」の具体的な内容は次の通りであり、ここに「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会との関わりが明記されており、これが、科学研究補助金から本研究報告論集の刊行費用を支出する根拠となる。

「3．国内における共同研究

研究代表者が所属する国内の研究会や学会などにおいて、本研究計画に関連した諸問題に関する討論を積極的に実施し、「1」「2」の文献収集とその読解に基づく研究を補完する。具体的には、本研究の研究代表者が代表者となっている、現代キリスト教思想研究会（京都大学を会場として実施。<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/christ/seminar.html>）内に属する「アジアと宗教的多元性」研究会と「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会、あるいは、「格差社会と人間の危機」を2009年度の統一研究テーマとしている宗教倫理学会（<http://www.jare.jp/>。本研究の代表者は、この学会の評議員）が、研究討論の場として想定されている。いずれも、比較的少人数の研究者が集中的な討論を行うのに適しており、本研究計画を、研究代表者の個人研究から研究者間の共同研究として進展させることが可能である。こうした研究の展開可能性については、22年度の早い段階からその実現に向けた取り組みがなされる。」

以上の経緯より、この研究報告論集は、研究会の研究成果であるとともに、研究課題「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」の研究成果中間報告書として位置づけられることになる。

なお、科学研究補助金の平成22年度交付分は、以下の通りである。

直接経費 1,100,000 円、 間接経費 330,000 円、 合計 1,430,000 円